

かもめ便り

社会福祉法人 小渦会
鳴門シーガル病院

理事長 高橋 徹
院長 福永 明広

シーガル病院

検索

記事紹介

納涼祭	1面
学生実習	2面
健康相談会	2面
新型コロナウイルス感染症対応	3面
避難訓練・消火訓練	3面
給食だより	3面
Dr.'sエッセイ	4面

【ホームページ】 <http://k-seagull.jp/> 【所在地】 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 【TEL】 088-688-0011 (代)

イベント

納涼祭を開催しました

7月29日(水)鳴門シーガル病院の納涼祭を開催いたしました。例年の納涼祭は、地域の方々にもお越しいただき、患者さんとの交流の場となっております。しかし、新型コロナウイルスの影響を考慮し、今年は患者さんと当院スタッフのみの参加で開催いたしました。また、感染防止対策として、「各病棟ごとに分散して入場し、時間制限を設ける。」「人が通る動線を一方方向にする。」「入場前に会場入口で手指消毒を行う。」などを行いました。

当院の年間行事の中で、納涼祭は大きなイベントの一つです。久しぶりの大きなイベントとあり、この日を楽しみにしていた多くの患者さんが、予定より早く会場前で待っていました。

例年好評をいただいている屋台では、たこ焼き、ミニたい焼き、かき氷、フランクフルトが出店されました。また、射的コーナーやカラオケ大会も開催されました。射的コーナーでは的を倒すと景品獲得ができるルールとなっており、とても盛り上がっていました。

納涼祭の締めくくりは花火大会です。連日の雨で開催できるか不安でしたが、皆さんの思いが届き、無事に開催できました。たくさんの花火を打ち上げ、今年の納涼祭は終了いたしました。

5月に開催予定だった運動会が中止となり、納涼祭も開催できるのか不安でした。しかし、感染対策での制限はありましたが、多くの患者さんに満足していただき、開催できて本当に良かったと思っております。来年はコロナが収束し、地域の皆さんと交流する場が増えることを願っております。



シーガルニュース

学生実習が行われました

鳴門シーガル病院には毎年、看護師・作業療法士・臨床心理士などの資格取得を目指す多くの学生さんが実習に来られます。

6月と7月には、徳島大学大学院、徳島県鳴門病院附属看護専門学校、徳島医療福祉専門学校の3校から学生さんが来られ、例年以上に活気に溢れていました。

この日は病院で毎日行っているレクにも参加していただき、患者さんと交流を図りながら実習に取り組んでおられました。

短い期間でしたが、当院での経験を活かしていただき、夢に向かって頑張ってください。そしていつか、同じ医療の現場でお会いできることを楽しみにしています。



地域交流

健康相談会を開催しました

7月16日(木)鳴門市のふれあい健康館にて健康相談会を開催いたしました。

まず、身長・体重・血圧・筋肉量・推定骨量などを測定します。その結果をもとに、看護師や管理栄養士から健康や食事などのアドバイスをを行います。

この日も多くの方々にお越しいただきました。毎月第3木曜日に開催しておりますので、日々の体調管理などで相談されたい方、お気軽にお越しください。



シーガルニュース

新型コロナウイルス感染症対応について

新型コロナウイルス感染症の国内及び県内発生が、引き続き確認されている状況です。鳴門シーガル病院では感染症対策として、職員へ出勤時と昼の2回検温をし記録すること。また、外部から来院される方々にも、検温にご協力をいただいております。

さらに、徳島県や周辺地域の感染状況を注視し、状況に応じて迅速な対応がとれるよう、フェーズ表を作成。職員に周知徹底を呼びかけるなど、様々な対応を行っております。

8月現在、対策強化のため、面会も原則禁止させていただいております。ご協力とご理解のほど、よろしくお願いいたします。面会再開等の最新情報は、随時ホームページでご案内いたします。



シーガルニュース

避難訓練と消火訓練を行いました



5月27日（水）、鳴門シーガル病院で避難訓練と消火訓練が行われました。今回は、火災を想定した訓練です。外にある指定の避難場所に避難し、点呼を行いました。

また、練習用の消火器を用いて、消火訓練も行いました。消火器に触れる機会がほとんど無いため、有事でも落ち着いて操作し消火ができるよう、皆真剣に取り組んでいました。

給食だより



令和2年7月の行事食は、七夕をイメージした食事や暑い夏を乗り切るための食事を提供し、患者さんに大変喜んでいただきました。提供した食事の由来や写真を紹介します。

*そうめんと七夕ゼリー 7月7日

七夕の行事食はそうめん。意外に知られていませんが、千年も前から七夕の行事食となっていました。

節供に旬のものを食べ、邪気を祓ったり無病息災を願ったりする風習がたくさんありますが、夏のそうめんもそのひとつ。暑さで食欲が減退するこの時期にぴったりで、天の川や織姫の織り糸に見立てることもできます。

デザートには、見た目もきれいで涼し気な七夕ゼリーを提供しました。



*うなぎの蒲焼き 7月21日（土用の丑の日）

「土用の丑の日」にうなぎを食べる理由は諸説あります。その中で最も有名な説は、江戸時代に本草学、地質学者、発明など、あらゆる分野で才能を発揮した平賀源内が推奨したという話です。

当時、夏のうなぎは人気がありませんでした。夏でも繁盛させたいうなぎ屋は、知恵者で有名な平賀源内に相談。源内は「丑の日だから『う』のつくものを食べると縁起がいい」というキャッチコピーを発案しました。これを店に貼りだしたところ、店は大繁盛。それ以来「土用の丑の日」にうなぎを食べる風習が根付いたといわれています。

源内の知恵によって、この風習は広く知られるようになったのですが、うなぎはそれ以前から“精”がつく食材として知られていました。うなぎが日本古来のスタミナ食材であり、その効果が確かにあったからこそ、夏の土用に欠かせない食材となったのです。





今日は、私が最近ドハマりしている釣りについてお話をさせていただきます。

皆さんも釣りは一度はしたことがあるかと思います。私も小学生のころ両親に連れられ、鳴門でしょっちゅう釣りをしていました。当時はサビキ釣りで、小さいアジがたくさん釣れて、料理が大変なあまり母が文句を言い、毎回喧嘩していたような気がします。

しかし私も年ごろになり、魚釣りよりショッピングに興味を持つようになり、釣りからはすっかり遠ざかっていました。

そんな私が再び釣りとお出会ったのは去年。モルディブの海でダイビングの合間に船から何気なく竿を投げたら、カツオがうじゃうじゃ釣れてビックリ。帰国後、夫婦ともに釣りにどっぷりつかってしまいました。

自分の誕生日に夫からプレゼントは何がいいか聞かれ、

「釣り竿」と回答。新しい釣り竿をいただき、それからは毎週末、朝から晩まで竿を振るようになりました。

私は現在、ルアーを使って釣りをしています。幼少期の釣りとは違い、ルアーを遠くに飛ばさなければいけません。しかし当初は全く見当違いのところに飛んでいき、夫から「海はあっち、こっちは道路」とお叱りを受けました。たまに海に向かってルアーが飛んでも停泊中の船の上…。夫は難なく釣りを楽しんでいましたが、私は全く釣れない日が続き、「一生釣れないんじゃないか…」と悩んでいました。

そんなある日、私の竿がググッとしなりました。「また地球を釣った、怒られる。」と身構えたのですが、何やら変。竿が引っ張っていかれます。腕がちぎれるかと思うほどの奮闘をしたあと、現れたのは50cm級のヒラメでした。

そこからは、私もぼちぼち釣ることができるようになりました。本格的な竿を、釣りの師匠である河野PSWにいただき、毎週10時間、釣り場で竿を振っています。

真冬の釣りは過酷ですが、毎年春になると小魚が生まれ、たくさん釣れます。私が住んでいる坂出は、一年を通して海の四季を感じる事ができ、釣りスポットとしても最適です。釣れない日も多々ありますが、屋外で過ごす一日はとても気分がよく、心の洗濯にもなります。

さあ、今週も青物狙っていきますよ!!

医師 松下真美



【編集後記】

コロナの影響が心配されておりましたが、今年も納涼祭が無事に開催できました。学生実習もあり、当院にも活気が戻ってきていると感じました。

次号（『かもめ便り』第24号）は2020年11月に発行の予定です。

広報委員会

社会福祉法人 小瀬会URL



鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)

- 直営渡船利用 (所要時間2分)

◎ 渡船(無料) 運航時間

午前7時30分から午後5時20分まで

定時運航(10分～30分間隔)しています。

TEL088-688-0011(代)

